

「主体的・対話的で
深い学び」の
実現に向けた授業実践
学習指導案例と指導のポイント
vol.5 歌唱編

移行期の指導に当たって

新学習指導要領で押さえないポイント	4
新学習指導要領の全部又は一部を実施できる	4
学習評価は現行の観点で進める	5

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

歌唱編

「歌唱」に関する音楽科改訂の趣旨及び要点	6
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践	7

学習指導案例 と 指導のポイント

1. 題材名	8
2. 学習指導要領の指導事項	8
3. 題材の目標	8
4. 教材について	8
5. 題材の評価規準	10
6. 指導と評価の計画(全2時間)	10
ワークシート例	18, 20, 22

「移行期用資料」発行予定

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践
学習指導案例と指導のポイント

- vol.1 我が国の伝統的な歌唱編
- vol.2 鑑賞編
- vol.3 創作編
- vol.4 器楽編
- vol.5 歌唱編(本書)
- vol.6 評価編

令和元年度中に順次発行予定(発行順が変更になる場合があります)

移行期の指導に当たって

新学習指導要領で押さえないポイント

平成29年に告示された新学習指導要領において、音楽科の目標は次のように示された。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

音楽科で育成を目指す資質・能力が「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定され、そうした資質・能力の育成を目指すために「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った目標が示された。それによって、生徒が教科としての音楽を学ぶ意味が一層明確になった。学年の目標についても、教科の目標の構造に合わせて、三つの柱で整理された。

また、内容構成については従来と同様に、「A 表現」「B 鑑賞」及び「共通事項」で構成された。指導する内容自体について大きな変更はなかったものの、「思考力、判断力、表現力等」「知識」「技能」のそれぞれの資質・能力に対応するように構成され、それによって、指導すべき内容が一層明確になっている。移行期においては、これらの点をきちんと踏まえながら、自らの授業について振り返り、指導の改善を図っていく必要がある。

新学習指導要領の全部又は一部を実施できる

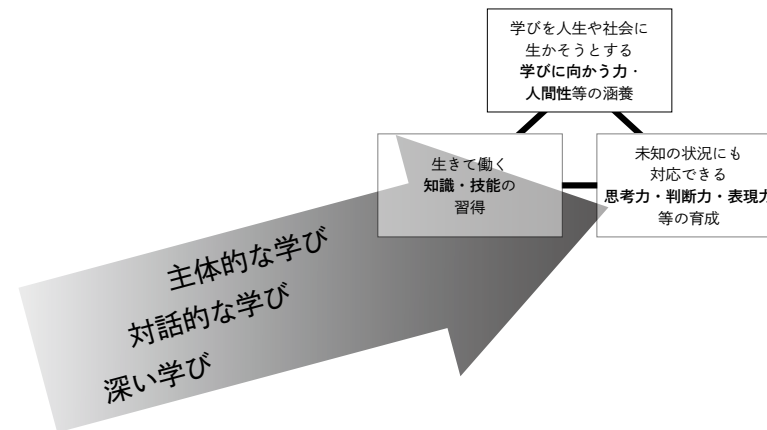
中学校においては平成30年度～令和2年度が移行期に当たり、音楽科の指導に当たっては、

現行中学校学習指導要領第2章第5節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新中学校学習指導要領第2章第5節の規定によることができる。

(文部科学省告示第九十四号)

としている。

新学習指導要領の基本方針や趣旨を踏まえた授業改善を計画的、段階的に進めながら、授業の内容を考えていくことが重要である。特に音楽科においては、指導する内容については現行学習指導要領からの変更がほぼなく、学年度の学習すべき内容に支障を来さないため、容易に移行することが可能であるといえる。現行の教科書を使いながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むようにしたい。



学習評価は現行の観点で進める

移行期における学習評価については、新学習指導要領の内容で指導しても、現行の評価規準の観点をを用いることに留意する必要がある。ただし、新学習指導要領が全面実施される令和3年度からは「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価する方向で検討が進んでいる。その点も視野に入れておくことが大切である。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

歌唱編

「歌唱」に関する音楽科改訂の趣旨及び要点

平成29年告示の新学習指導要領では、資質・能力の育成を目指すための三つの柱に沿って、教科の目標や指導内容が示されている。ここでは中学校音楽科の歌唱に関する指導内容を取り上げ、若干の説明を加える。

「A表現」(第1学年)

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。^{※1}

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり^{※2}

(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使用などの技能

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説「音楽編」(以下「解説」) p.37

※1…第2,3学年では「曲にふさわしい歌唱表現」

※2…第2,3学年では「歌詞の内容及び曲の背景」

アは、「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項である。「歌唱表現に関わる知識や技能」とは、事項イ(知識)及び事項ウ(技能)に示すものを指している。「得たり生かしたりしながら」とは、新しい知識や技能を習得したり、既習の知識や技能を生かしたりするという意味である。「歌唱表現を創意工夫する」とは、表したい歌唱表現について考え、どのように歌唱表現するかについて思いや意図をもつことである。生徒が様々な歌唱表現を試しながら工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ過程を大切に指導が求められている。

イは「知識」に関する事項である。(ア)で求めている理解とは、その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような音楽の構造によって生み出されているのかを捉えることである。〔共通事項〕を手掛かりに、生徒が曲想を感じ取り、感じ取った理由を、音楽の構造や歌詞の内容の視

点から自分自身で捉えていく過程が大切である。(イ)で求めている理解とは、声には、発声の仕方などによって生まれる様々な音色や響き、言葉の抑揚や言語のもつ質感などがあり、それらが、その曲種の特徴を生かした歌唱表現と密接に関わっていることを捉えることである。〔共通事項〕を手掛かりに、生徒が、声の音色や響き及び言葉の特性が生み出す特質や雰囲気を感受し、感受したことと発声との関わりを自分自身で捉えていく過程が大切である。

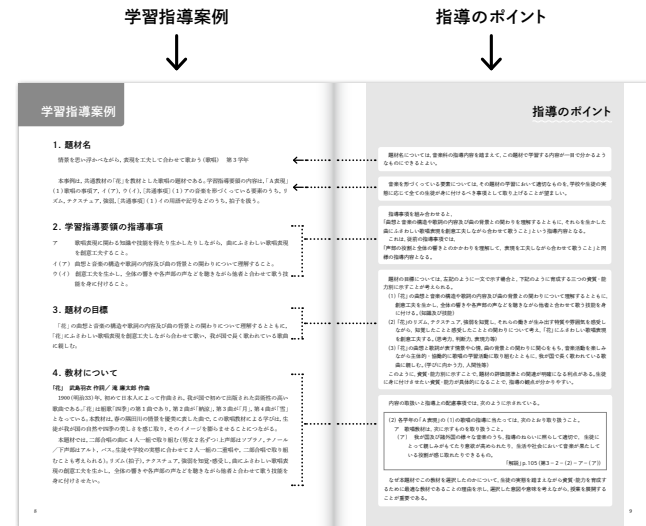
ウは、「技能」に関する事項である。(ア)(イ)とも、「創意工夫を生かし」とし、生徒が思いや意図を表すために必要なものとして指導することを求めている。生徒が必要を実感しながら、(ア)では発声、言葉の発音、身体の使用などの技能を、(イ)では、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けられるようにすることが大切である。

このように歌唱の指導内容は、ア、イ、ウの三つに分けて示されているが、それぞれに指導するのではなく、第3「指導計画の作成と内容の取扱い」1(2)に示されているように、ア、イ及びウの各事項を関連させて題材を設定することになる。すなわち歌唱の学習は、ア、イの(ア)(イ)のいずれか又は両方、ウの(ア)(イ)のいずれか又は両方の各事項を組み合わせた題材の設定となる。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

音楽科の学習においては、心と身体を使って音楽を感じ取る体験や、他者との関わりを通して音楽のよさや価値を実感する活動が重視されている。そして、これらの学習指導を充実させるためには、「アクティブ・ラーニング」の趣旨を盛り込んだ「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、学習活動と学びとの関連性や、学習活動を通して何が身に付いたかという観点で授業改善をすることが重要になる。

次のページからは、左(偶数)ページに「学習指導案例」を、右(奇数)ページには「指導のポイント」として、「授業のポイント」や「主体的・対話的で深い学びのための授業改善の視点」などを示す。



1. 題材名

情景を思い浮かべながら、表現を工夫して合わせて歌おう（歌唱） 第3学年

本事例は、共通教材の「花」を教材とした歌唱の題材である。学習指導要領の内容は、「A表現」（1）歌唱の事項ア、イ（ア）、ウ（イ）、〔共通事項〕（1）アの音楽を形づくっている要素のうち、リズム、テクスチャ、強弱、〔共通事項〕（1）イの用語や記号などのうち、拍子を扱う。

2. 学習指導要領の指導事項

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。
- イ（ア） 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解すること。
- ウ（イ） 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けること。

3. 題材の目標

「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、「花」にふさわしい歌唱表現を創意工夫しながら合わせて歌い、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

4. 教材について

「花」 武島羽衣 作詞／ 滝 廉太郎 作曲

1900（明治33）年、初めて日本人によって作曲され、我が国で初めて出版された芸術性の高い歌曲である。「花」は組歌「四季」の第1曲であり、第2曲が「納涼」、第3曲が「月」、第4曲が「雪」となっている。本教材は、春の隅田川の情景を優美に表した曲で、この歌唱教材による学びは、生徒が我が国の自然や四季の美しさを感じ取り、そのイメージを膨らませることにつながる。

本題材では、二部合唱の曲に4人一組で取り組む（男女2名ずつ：上声部はソプラノ、テノール／下声部はアルト、バス。生徒や学校の実態に合わせて2人一組の二重唱や、二部合唱で取り組むことも考えられる）。リズム（拍子）、テクスチャ、強弱を知覚・感受し、曲にふさわしい歌唱表現の創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けさせたい。

題材名については、音楽科の指導内容を踏まえて、この題材で学習する内容が一目で分かるようなものにできるとよい。

音楽を形づくっている要素については、その題材の学習において適切なものを、学校や生徒の実態に応じて全ての生徒が身に付けるべき事項として取り上げることが望ましい。

指導事項を組み合わせると、「曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫しながら合わせて歌うこと」という指導内容となる。

これは、従前の指導事項では、「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」と同様の指導内容となる。

題材の目標については、左記のように一文で示す場合と、下記のように育成する三つの資質・能力別に示すことが考えられる。

- (1) 「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。（知識及び技能）
- (2) 「花」のリズム、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考え、「花」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 「花」の曲想と歌詞が表す情景や心情、曲の背景との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。（学びに向かう力、人間性等）

このように、資質・能力別に示すことで、題材の評価規準との関連が明確になる利点がある。生徒に身に付けさせたい資質・能力が具体的にすることで、指導の観点が分かりやすい。

内容の取扱いと指導上の配慮事項では、次のように示されている。

- (2) 各学年の「A表現」の(1)の歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。
- ア 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。
 - (ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるもの。

〔解説〕p.105（第3-2-(2)-ア-(ア)）

なぜ本題材でこの教材を選択したのかについて、生徒の実態を踏まえながら資質・能力を育成するために最適な教材であることの理由を示し、選択した意図や意味を考えながら、授業を展開することが重要である。

5. 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の評価規準	声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	「花」のリズム、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

中学校の学習指導要領が全面实施される令和3年度からは、以下の3観点で評価する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	①「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。(知識) ②創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。(技能)	「花」のリズム、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	「花」の曲想と歌詞が表す情景や心情、曲の背景との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

6. 指導と評価の計画(全2時間)

※評価規準は省略
※評価方法は右(奇数)ページに◎で示す

時	◆ねらい ●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点
1	<p>◆「花」の曲想と歌詞が表す情景や心情、曲の背景との関わりに関心を持ち、リズム(拍子)、テクスチュア、強弱などの特徴を捉えながら、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。</p> <p>●本題材の見直しをもつ。 ・これまでに学習した共通教材について振り返り、共通教材を学習する意味を考える。 ・本題材では、「花」の二部合唱に挑戦することを覚える。</p>	<p>○共通教材を学ぶ意義を、これまでに学習してきたことを振り返りながら関連付けて考えさせる。我が国で長く歌われ親しまれている歌曲を歌唱教材として用いることが、生活の中の様々な場面で世代を超えて音楽を楽しんだり、共有したりする態度の涵養につながることを(例えば昨年度までに学習した共通教材を例に出しながら)確認させる。</p>

主体的・対話的で深い学びのための授業改善の視点

☆【主体的な学びを実現する視点】

- 「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち、生徒自ら学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとする学びのことである。
- 題材の最初に本題材と前題材との関連や学年間の系統的な接続を具体的に示したり、1単位時間の授業における目標や目指すべき姿を具体的に示したりしながら、生徒が何ができるようになればよいか(何を身に付ければよいか)を明確にすることが大切である。

授業のポイント①

「なぜ共通教材を学ぶのか」

- これは非常に重要な問いであり、中学校3年間の学びの中で生徒一人一人に考えさせる場面を設定したい。題材の最後に考えさせてもよい。
- 大切なことは、教師自身がこの問いについてどのように考え、捉えているかである。共通教材を扱う題材で、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にして授業を展開していくことが重要である。共通教材を学ぶことで、生徒にとってどのようなメリットがあるのか、生徒の生活や人生にどのような影響を与えるのかということまでを視野に入れて、授業を実践していきたい。

- 「花」の歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。
- ・「花」を聴いて、印象などを自由に話し合う。
- ・「花」の歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシート1①に書く。
- ・「花」を歌ったり聴いたりして、リズム、テクスチャ、強弱などから、知覚・感受したことをワークシート1②③に書く。
- ・書いたことを基にして学級全体で発表し合い、他の生徒の意見でよいと思ったことや気付いたことをワークシートに書き加える。

- 「花」を聴いた第一印象について、自由に意見交換させる。
- 1～3番の歌詞を音読したり、ソプラノ(テノール)の声部を歌ったりしながら、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシートに記入させる。
- 全員でソプラノ(テノール)とアルト(バス)の声部を歌ったり、2つの声部を合わせて歌ったり聴いたりしながら、ワークシートに記入させる。
- 学級全体で発表し合ったことについて、必要に応じて実際に歌ったり聴いたりしながら確認させる。

- 「花」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容とを関わらせて歌う。
- ・ワークシートに書いた「音楽を形づくっている要素」と「感じ取ったこと」を線で結び、「どのように合わせて歌うか」についてワークシート1④に書く。
- ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを意識して、「花」を二部合唱で歌う。

- 歌いながら考えたことや気付いたことについて、適宜、ワークシートに追記させたり、修正させたりする。
- 歌いながら、「感じ取ったこと」と「音楽を形づくっている要素」や「歌詞の内容」との関わりを意識させ、必要に応じてワークシートの記述を線で結ばせる。

授業のポイント②

- 題材の導入では、生徒に題材の見通しをもたせることはもちろん、初めて出会う教材をどのように生徒に提示するかがとても重要である。例えば、「花」を聴かせ「いつ頃に作曲されたと思いますか」などと発問し、歌詞を音読したり歌ったりしながら、考えさせる。生徒は、120年前に作曲された歌であることを知ると、とても驚き、本教材の色あせない本質的な芸術性に気付くことができる。
- 「花」の第一印象を話し合ったり、歌詞が表す情景、曲の雰囲気などについて自分の考えをワークシートに記入させる。その際、歌詞の文言等のみで考えさせるのではなく、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関連を踏まえながら考えさせることが重要である。
- 本指導と評価の計画では、曲の背景について発展例として題材の最後に示しているが(p.16)、第1時の導入で触れることも考えられる。

授業のポイント③

- 全員が「花」の2つの声部を歌う機会をつくる。
- 授業における合唱や重唱については難易度や声部の数にもよるが、可能であれば全ての声部を歌えるようにしたい。特に本題材では、身に付けさせたい資質・能力として、「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能」を設定しているため、両声部の特徴を理解して合わせて歌う活動を通して、生徒の技能を高めることが重要である。

主体的・対話的で深い学びのための授業改善の視点

☆【対話的な学びを実現する視点】

- 「対話的な学び」とは、学習活動を通して他者と協働することによって、多様な見方・考え方を学ぶことである。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考え方をもち、音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていくことが重要である。
- ここでは、音楽を聴いて自由に意見交換をさせたり、試行錯誤しながら歌唱表現を確かめさせたりするなど、音楽を媒体とした対話的な活動ができる方法や場面設定を工夫する。

授業のポイント④

- 「花」のもっている音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどが、どのような音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景によって生み出されているのかを、生徒自身が捉えていくことが重要である。この学習場面では、生徒が記入したワークシート1①～④を関連付けながら理解させたい。
- ◎新しい評価の3観点で考えると、この活動場面で、「知識」の観点を評価することができる。主には、ワークシートの記述内容や観察で見取る。

◆「花」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う。

●「花」にふさわしい歌唱表現を追求し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもつ。

- ・前時に学習したことを基に、4人一組(男女2名ずつ：上声部はソプラノ、テノール/下声部はアルト、バス)のグループで、拍子の感じ方、テクスチャの生かし方、強弱などを変えて様々に歌い試しながら、「花」の3番を中心にふさわしい音楽表現について考える。
- ・どのように合わせて歌うかについて、思いや意図をワークシート2の楽譜に書き込み、特に表現を工夫するポイント(理由も含む)をワークシート3に書く。

○4分の2拍子だけでなく8分の4拍子で指揮をしながら歌い試し、拍子の特徴を感じ取らせる。

○声部の特徴を生かしながらどのような音色や音量で、どのように合わせて歌えばよいかについて考えさせる。

○ワークシート2の楽譜に思いや意図を記入し、特にこだわって表現を工夫するポイントについては、ワークシート3に具体的に書かせる。

●思いや意図をもって「花」を歌う。

- ・グループで歌いながら、どのように合わせて歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったり具体的になったりしたところがある場合は、ワークシートに、適宜、加筆修正する。
- ・思いや意図と、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能との関係を意識して歌う。
- ・グループごとに演奏を発表し合い、お互いの演奏に対して気付いたことをワークシート4に記入し、意見を述べ合う。

○ワークシート2,3に書き込んだ内容について、自分たちの思いや意図と音楽表現との関係性を確認しながら進めさせる。その過程で思いや意図が変わってもよいことを伝える。

○音楽科における協働的な視点をもたせ、他者と合わせて歌うよさや必要性を感じながら技能を身に付けられるようにする。

○他者の演奏を聴き、それぞれのグループの音楽表現のよさについて考えさせる。

●本題材の学習を振り返る。

- ・題材を通して学んだことをワークシート5に記入する。

○本題材を通して学んだことを振り返り、共通教材を扱う意味や次の歌唱の題材へとつなげる視点についても考えながらワークシートに記入させる。

授業のポイント⑤

- 第1時で学習したことを基に、他者と関わり合い、実際に様々な表現を試しながら、曲にふさわしい歌唱表現に対する思いや意図をもてるようにすることが重要である。
- ◎新しい評価の3観点で考えると、この活動場面で、「思考・判断・表現」の観点を評価することができる。主には、ワークシートの記述内容や観察で見取る。

授業のポイント⑥

☆【音楽科における、協働的な学び】

- ここでの協働的な学びとは、音楽科の学習の多くで大切にされている、他者との関わりの中で行われる学びを示している。これまでも、合唱や合奏など、生徒が他者と力を合わせて一つの音楽表現をつくり上げる体験を通して「協同」する喜びを感じることでできる指導を重んじてきた。これに対し「協働」は、合唱や合奏などにおける「協同」に留まらず、表現及び鑑賞の学習において、生徒一人一人が考えや気付きを他者と共有し、感じ取ったことに共感したり意見を述べたりしながら個々の学びを深め、音楽表現を生み出したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりすることを意味している。
- ここでは、他者とともに一つの音楽表現をつくっていくが、そこには、音楽表現に対する思いや意図に基づく自己の主張と他者との協調とが両立していることが重要である。

授業のポイント⑦

- グループ発表時には、ワークシート3に書いてある内容に基づいて、「このように合わせて歌いたい」ということを、あらかじめ言葉で説明してから演奏を行い、他のグループの生徒にも演奏を聴く観点をもたせることが重要である。
- ここでは、ワークシート4に書くことだけが目的ではなく、他のグループの演奏を聴き、互いの演奏のよさを認め合ったり、気付いたことを自分たちの演奏に生かしたりしていけるようにすることが大切である。
- ◎新しい評価の3観点で考えると、この活動場面で、「技能」の観点を評価することができる。主には、演奏(歌唱)で見取る。

授業のポイント⑧

☆【生徒や学校の実態に合わせて、まとめをどのように設定するか】

(ワークシート5例1)

- 本題材を通して、学んだことを振り返らせる。「花」の歌詞の情景を思い浮かべながら表現を工夫して合わせて歌う学習で学んだことを、次の歌唱の題材へどのように生かしていくかなどについての視点を含めながらまとめるように助言する。

(ワークシート5例2)

- 本題材を通して学んだことを基に、再度、共通教材を学習する意味について考えさせたい。「花」の学習が、生徒にとって、共通教材のよさを捉え直し、さらに曲に対する捉え方を質的に深め、自分にとっての「歌うこと」の意味を見いだしたり、「人はなぜ歌うのか」、「歌が人々の生活や社会に果たす役割は何か」などについて考えたりする機会につながるようにすることが重要である。
- ◎新しい評価の3観点で考えると、この活動場面で、「主体的に学習に取り組む態度」の観点を評価することができる。主には、ワークシートへの記述や観察で見取る。

〈本題材における発展例〉

・「花」が日本で最初に出版された芸術性の高い歌曲であるということを知り、昨年度に学習した「勸進帳」の初演から60年しか経っていないことを踏まえ、曲想や歌い方が大きく異なる2曲を比較して当時の日本の社会情勢について考える。

○それぞれの教材のよさや魅力を味わいながら、生活や社会において音楽が果たしている役割を、生徒が実感を伴って理解し、感じ取ることができるようにする。

主体的・対話的で深い学びのための授業改善の視点

☆【深い学びを実現する視点】

- 「深い学び」とは、「音楽的な見方・考え方」を働かせて自分自身の課題を見付け、思いや考えを基に豊かに意味や価値を創造していくことである。
- 「深い学び」の鍵となるのが、「音楽的な見方・考え方」である。「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげられるようにする。

本題材で「花」を歌唱教材として学習したことを生かして、昨年度に学習した「勸進帳」と関連させて扱うことが考えられる。例えば、曲想や歌いなどが大きく異なる2曲を、様々な歌唱法を試しながら学習する。これだけでも意味のある学習となるが、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、次のような視点をもって学習に取り組むとどうであろうか。

「花」の出版は明治33(1900)年、歌舞伎「勸進帳」の初演は天保11(1840)年である。
この60年の間に、日本の音楽界では何が起きていたのでしょうか。歌ったり鑑賞したりしたことを生かしながら、当時の日本の社会情勢を踏まえて考えましょう。

この2曲の成立年のちょうど真ん中には、明治維新という時代の変革期が訪れる。「勸進帳」は江戸時代を通して発展してきた歌舞伎の音楽で、明治になるまで江戸の人々が楽しんできた音楽である。一方「花」は、1879年の音楽取調掛の設立によって始まる西洋音楽の急速な受容の成果ともいえる。このような日本の社会情勢と音楽事情の変化や背景を理解した上で授業を行うと、歌唱法や歌唱表現を様々に試みる学習に留まらず、生徒は生活や社会、文化と関連付けて、それぞれの音楽の魅力を自ら実感できるようになる。

※ワークシート例

(斜体の文字と —, ~~, →, ○, □ は、生徒の記述を例示している。)

情景を思い浮かべながら、表現を工夫して合わせて歌おう

1. 「花」の歌詞を音読したり歌ったりしながら①～④について書こう。

	1番	2番	3番
① 歌詞の内容 情景や心情、 曲の雰囲気 など	<ul style="list-style-type: none"> 春の柔らかな日ざしの中で船のオールから落ちるしずくと桜の花びらを重ねて表現している。 明るく、爽やかな感じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 夜明けと夕暮れの情景の対比を表現している。 静かな感じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 美しい織物のように長い土手に日が暮れるとおぼろ月がのぼる。色彩のコントラストが見事。 音楽にメリハリがある感じ。
② 音楽を形づくっている要素 ・リズム(拍子) ・テクスチャ ・強弱 ・その他	<ul style="list-style-type: none"> 4分の2拍子。 16分音符、休符が多く使われている。 声部が二つに分かれている。主旋律はソプラノ(テノール)。 強弱記号は <i>mf</i> と <i>f</i> のみ。 	<ul style="list-style-type: none"> 前半は <i>p</i>, 後半は <i>f</i> になっている。 前半はアルト(バス), 後半はソプラノ(テノール)の声部のみのユニゾンとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 声部が二つに分かれている。主旋律はソプラノ(テノール)。 <i>f</i> と <i>mf</i> が多く使われているが、急に <i>p</i> になるところがあり、< もある。 <i>rit.</i> が最後に使われている。
③ 感じ取ったこと	<ul style="list-style-type: none"> 生き生きとしていてリズムミカルな感じ。 堂々としている感じ。 各声部が独立していて、ハーモニーが美しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 繊細で音楽がなめらかに流れていく感じ。 時間の経過を強弱で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 感動している。 人々の活気にあふれている。 音楽が盛り上がり、ドラマチックな感じがする。
④ どのように合わせて歌うか	<ul style="list-style-type: none"> グループで、ブレスの位置や曲想に合った息の吸い方を共有して、ピアノ伴奏に合わせて4分の2拍子のリズムに合わせて歌いたい。 16分休符を生かしたり、16分音符の細かい旋律の動きを聴き合ったりしながら、曲にふさわしい声の音色や音量のバランスを工夫して歌いたい。 		

教師の発問・指導例、生徒の発言例



実際に歌ったり聴いたりしながら、「リズム(拍子)、テクスチャ、強弱などの、音楽を形づくっている要素」と、「感じ取ったこと」との関連について考えながら、ワークシートに書こう。



「生き生きとしていてリズムミカルな感じがする」のは、「4分の2拍子で16分音符や休符が多く使われている」からだね。



3番は強弱の変化があって、特に最後は音楽が盛り上がり、ドラマチックな感じがするね。

教師の発問・指導例、生徒の発言例 〈ブレスについて〉



「花」を合わせて歌う際、大切なことは何かな？



息を吸うスピードや量を合わせて、他の人と同じタイミングでブレスできるといいな。



この歌は2小節ごとブレスがあるね。でも3段目のみ一息になっているよ。お互いの目を見てブレスをして歌うと、心がつながっているように感じるね。

教師の発問・指導例、生徒の発言例 〈16分休符の歌い方について〉



16分休符は、どのように歌えばよいか。16分休符を入れて歌った場合と、入れないで歌った場合を比較しながら考えてみよう。



16分休符を入れて歌うとキラッと爽やかな感じがするけど、入れないで歌うとダラダラした感じになるね。「春の」後に、「キラッ」としたステキな感情を入れて歌いたいな。



休符の部分を、「音はないけど音楽はある」感じで歌うといいんじゃないかな。



音がなくてもブレスをしないで歌うことも重要だと思うな。



合わせて歌うとき、グループの中で一人でも音を伸ばすと台無しになってしまうので、緊張感をもって、休符の長さの感じ方を統一することが大切だね。

※ワークシート例

2. 「花」の3番について、感じ取ったことや、どのように合わせて歌うかについて、思いや意図を書こう。

「花」 武島羽衣 作詞／滝廉太郎 作曲

【パート：ソプラノ（テノール）】

はつきりと堂々と歌う
「ちょおおお」とリズムをはつきり歌い、
アルトを引っ張るイメージ

に しき おりーなーす ちょうーて い に
きれいな土手の桜を タイミングを合わせて イメージして
1段目と2段目の色彩のコントラストを、
しっぴかり張った声と少し柔らかい声で表現する

く る れ ば のーぼーる お ぼろーづーき
言葉をはつきりと歌い、
アルトの16分音符の動きをよく聴いて歌う

一気に
げ に い 一 つ こ く も せん きん の な がめを
8分音符は急がない 速くならない

1音ずつ cresc. するイメージで
音楽がだんだん広がっていくように歌う

声量のバランスが
くずれないように
アルトの16分音符の動きをよく聴いて
rit. し、感動している様子を表現する

3. 3番で特に表現を工夫したいポイントとそのように考えた理由を書こう。

「花」の3番で唯一ある **p** の表現の「おぼろ月」の部分で工夫して歌いたい。
p でも、音楽のエネルギーは失わず、言葉をはつきりと発音して歌いたい。アルトの16分音符の動きをよく聴いて、その上に主旋律を乗せるようなイメージで歌いたい。
f の鮮やかな土手の様子と **p** の「おぼろ月」のコントラストを、声の音色と強弱を工夫して表現したい。

授業のポイント⑨

○全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能には、自分と同じ声部の他者の声や、他の声部の声などとの重なりやつながりを聴きながら歌う技能などがある。ここでは、グループで「花」を歌いながら、他者の声量や声質に合わせて、自分の声量や発声を調節できるように歌い方を工夫するなどの活動が考えられる。各声部の役割と声量のバランスを踏まえ、強弱の変換について創意工夫したことを生かし、合わせて歌えるようにすることが大切である。

生徒の発言例 〈声量や声の音色、テクスチャについて〉

ソプラノ、テノールの生徒



主旋律を担当しているから、しっぴかりとした声量で歌いたいな。リズムカルで爽やかな曲想なので、明るい声の音色を意識して、言葉をはつきりと発音できるといいね。

合わせて歌うときに、自分が速くなってしまふので、下声部の16分音符の細かい動きをしっぴかりと聴きながら、拍を感じて合わせたいな。



アルト、バスの生徒



1番と3番は主旋律のソプラノパートの声をよく聴いて、自分の声量が大きくなりすぎないように注意したいな。

主旋律を聴きながら、その音色に寄り添う柔らかい声で工夫して歌えるといいね。



教師の発問・指導例、生徒の発言例 〈拍子について〉



4分の2拍子のリズムを感じて歌うにはどうしたらよいか？指揮をしながら合わせて歌い、4分の2拍子と1小節を4拍に振る場合を比べてみよう。

1拍ごとに、船のオールをこいでいるように歌うと2拍子の感じが出るね。

1小節を4拍に振って歌うと、何だか忙しい感じがして、曲のリズミカルな感じが出ないなあ。

ピアノの伴奏の左手の動きに注目して歌うと、4分の2拍子の感じて歌いやすいよ。

2拍子を感じながら歌うと、2声のリズムのタイミングがしっぴかりと合うね。



4. 他のグループの演奏を聴いて、音楽表現の工夫について印象に残ったことや気付いたこと、また、自分たちの演奏に生かしたいことについて書こう。

- ・「おぼろ月」のPの部分で工夫しているグループが多かったけれど、それぞれの表現の仕方が違って、とても面白かった。印象に残ったグループの演奏は、強弱の表現だけではなく、声の音色の変化が素晴らしかった。
- ・キレイにハモっているグループは、ブレスや16分休符の歌い方などがそろっていた。相手の声を聴きながら合わせて歌うためには、アイコンタクトやブレス、気持ちを一つにすることが大切だと思った。
- ・二部合唱の部分で、ソプラノが主旋律だからといって声量を出しすぎると、ハーモニーのバランスが悪くなってしまおうと思った。逆に、アルトの音域のほうが高いので、より一層声量を大きくして主旋律を支えるイメージで歌うとよいと思った。

5. (例1)

「花」の学習を終えて学んだことを振り返り、次の学習につなげよう。

- ・始めは少人数でハモるなんて無理だと思っていたけれど、実際に歌ってみるとそうでもなかった。大人数で合唱するときも、少人数で歌うときと同じくらい緊張感をもって、自分の歌声に責任をもつことが大切だと思った。
- ・今まで合唱するときは、特に何も考えずに歌うこともあったが、「花」を少ない人数で歌う経験をする中で、いかに自分が適当に歌っていたかを実感することができた。言い換えれば、クラス全体で歌う合唱では安心感があるので、そこに甘えていたのだと思った。
- ・合唱は今までも大好きだったけれど、今回「花」を歌って、さらに好きになった。少人数で歌うときに一人一人の声が重要なのはもちろんだけど、合唱でキレイにハモったときのゾクゾク感がたまらない。やっぱりみんなで合わせて歌うのはとても楽しいと再確認した。

5. (例2)

現在まで長く歌い継がれ、親しまれている日本の歌を学習する意味は何だと思えますか。「花」のよさや魅力を踏まえながら、学習したことを基に考えてみよう。

- ・まず、「花」が100年以上も前に作曲されたという事実を知ってとても驚いた。今の時代の私たちが歌っても違和感がないし、全く古い曲だという感じがしない。滝廉太郎の才能はすごいと思う。歴史で学習した文明開化が音楽にも影響を与えているということが、実際に歌うことでとてもよく分かった。
- ・歌詞の内容や情景から、100年以上前の隅田川の様子が想像できた。当時の人々と同じ音楽を現代の私たちが歌っているという事実は、とても不思議な感じがするが、これも目に見えない音楽のもつ大きな力だと思った。そういう意味でも、昔から歌い継がれている日本の歌を学習することは、とても大切なことだと思う。
- ・今まで学習した「浜辺の歌」や「荒城の月」、「早春賦」などは、ユニゾンの歌だったけれど、「花」は二部合唱なので、とても新鮮だった。しかも、今までの歌よりも昔に作曲された事実を知って全くそんな感じがしないのでとても驚いた。「花」を少人数でハモるのはとても難しかったけれど、やっぱり友達と合わせて歌うのは楽しい。100年以上前には「花」のような合唱曲はほとんど存在しなかったと聞いて、当時の人々がこの美しいハーモニーを聴いたときにどのような反応だったのか、また、どのような気持ちで歌っていたのかを想像すると、とても不思議な感じがする。

○生徒の記述は、記入例として示している。生徒や学校の実態に合わせて、適宜、分量などを調節するとよい。

本社 〒171-0051 東京都豊島区长崎1-12-15
TEL:03-3957-1175 FAX:03-3957-1174(代表)

中部支社 〒460-0024 名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル8F
TEL:052-678-3151 FAX:052-678-3153

関西支社 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-14-17-601
TEL:06-6943-7245 FAX:06-6920-2170

西部支社 〒751-0808 下関市一の宮本町2-7-14
TEL:083-256-4747 FAX:083-256-1010

2020年3月発行 49084